



まもなく開幕！

開会式情報、主要作品解説を追加しました。

会 期：平成27(2015)年

10月31日(土)～12月23日(水・祝)

会期中無休

開館時間：9:00～17:00

※金曜日は19:00まで ※入館は閉館30分前まで

※10月31日は10:00開場

料 金：一般 1100円 (900円)
高・大学生 700円 (500円)
小・中学生 400円 (200円)
※()内は前売・20名以上の団体料金



- JR広島駅より約1km ● 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜
広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

【開会式について】

次の通り、「京都市美術館名品展」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

※現在の予定であり、当日変更となる可能性があります。

日時／平成27年10月31日(土)午前9時30分～

場所／広島県立美術館 3階企画展示室入口 ロビー

1 開会の辞

2 主催者紹介・挨拶（主催者全員を紹介ののち挨拶）

- ・広島県立美術館 館長 千足 伸行(紹介・挨拶)
- ・イズミテクノ 営業本部長 古川 貴敏(紹介のみ)
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷 義則(紹介のみ)

3 来賓紹介

- ・京都市美術館 館長 潮江 宏三 様 (紹介・祝辞)
- ・京都市美術館 学芸課長 尾崎 真人 様 (紹介)

4 協賛者紹介

- ・広島県信用組合 理事総務部長 谷口 哲 様 (紹介のみ)

5 テープカット

- ・京都市美術館 館長 潮江 宏三 様
- ・広島県立美術館 館長 千足 伸行
- ・イズミテクノ 営業本部長 古川 貴敏
- ・中国新聞社 代表取締役社長 岡谷 義則

6 閉会の辞

司会／山原 玲子

(内 覧)

うるわしの京都
あこがれの美

【展覧会概要】

京都市美術館は、1928(昭和3)年に京都で挙行された天皇即位の大典を契機に、1933(昭和8)年に大礼記念京都美術館の名称で開設され、1952(昭和27)年に現在の名称となりました。同館は近現代美術の鑑賞と発表のための西日本最大の舞台のひとつとして、戦後日本文化の中で大きな役割を果たしてきました。同時に、明治以降の京都を中心とした多くの美術・工芸品を着実に収集し、今やそのコレクションは日本近代美術の流れを物語るものとなっています。

今回の展覧会では京都市美術館所蔵の日本画作品から精選した、上村松園《人生の花》、土田麦僊《平牀》、前田青邨《観画》、菊池契月《散策》など72点の名品を通して、明治・大正・昭和にいたる女性像のさまざまな表現と変遷を紹介します。

【京都市美術館について】 ※京都市美術館公式ホームページより掲載

平安の昔より、永きにわたり日本の文化・芸術の中心地であった京都は、明治以降においても、美術・工芸の中心地として、現代文化創造に重要な役割を果たしてきました。

この恵まれた芸術的伝統と活発な制作環境を背景に、京都市美術館は、昭和8年11月、東京都美術館に次ぐ日本で二番目の大規模公立美術館として設立されました。設立の機縁となったのは、昭和3年に京都で挙行された天皇即位の大典であり、その記念事業として、関西の財界はもとより多数の市民の協力を得て「大礼記念京都美術館」との名称で開設されました。以来、当時最大の美術展であった帝展をはじめとして、常設展や特別展、市展を開催し、戦時下の悪条件を克服して、京都美術界の発展に寄与してきました。

戦後は一時駐留軍に接收されましたが、昭和27年、接收解除を機に京都市美術館と改称し、美術館活動を全面的に再開しました。以来、戦前からの各種展覧会に加え、国際文化交流という時代の要請を受けて大規模な外国展覧会が頻りに開催されるようになり、近・現代美術の鑑賞と発表のための、西日本最大の舞台のひとつとして、戦後日本文化の中で大きな役割を果たしてきました。また、明治以降の京都を中心とした美術・工芸品を広く公開する常設展示施設が目指された設立趣旨のもと、開館以来の多くの寄贈や購入によって作品の収集も着実に進展し、昭和46年11月には念願の新収蔵庫が竣工して、作品収蔵機能の充実が図られ、さらに平成12年4月には、別館が開館して、展覧会開催の機能にもさらなる充実が図られました。今日も近・現代美術の収集と展覧、独自の調査研究、普及活動、作家活動の助成など、現代の美術・文化の振興に貢献しています。



【本展について(担当よりマスコミのみなさまへ)】

本展は、京都を中心とする画家による美人画の展覧会です。

どのように作品に向き合うかは自由なのですが、日本画の典雅な世界に遊ぶのもよし、和服や洋服、民族衣装まで華麗な衣装に見とれるのもよし...、鮮やかで美しい大画面を満喫していただけることでしょう。

そして、画家たちは造形的美人の表現だけに留まらず、それぞれの時代の現実世界を映す人の心を描き出そうとしているのです。

大画面の本格的な日本画を満喫できる展覧会です。是非、ご取材ください。

【展覧会の構成について】

1. 幕末京都の美人画

江戸末期の京都で活躍した三島上龍、吉原真龍、上島鳳山らによる、近代美人画が花開く前のプロローグ。

2. 美人画誕生！ー上村松園と京都画壇

竹内栖鳳に師事し、格調高い女性の姿を描き、昭和23(1948)年女性として初めて文化勲章を受章した上村松園をはじめ、西山翠嶂、甲斐庄楠音、秋野不矩、堂本印象、土田麦僊など、画家たちがさまざまな視点から描いた作品をご覧ください。

3. 京の風俗

京都ならではの風俗を題材とした作品を取り上げます。林司馬、大日躬世子、宇田荻邨、丹羽阿樹子、案本一洋など京都の画家は身近なテーマとして舞妓や大原女、文学を選びました。

4. 時代を映した女性像のモダン

社会の近代化は女性たちの生き方に大きな影響を与えました。自身を見つめた自画像、戦争の時代を反映した画題、当時のお嬢さんたちのセーラー服姿や流行のファッション...、画家たちは自らが生きた時代の空気を女性像という姿を借りて描き出したのです。



西山翠嶂《桜花》
大正12年 絹本着色
日本美術展覧会



由里本景子《望遠鏡》
昭和15年 絹本着色
第3回市展



丹羽阿樹子《遠矢》
昭和10年 絹本着色
第1回市展

【主要作品解説】

上村松園《人生の花》 明治32年 絹本着色

祖父が勤める呉服商の娘の嫁入りのとき、作者は頼まれて化粧を手伝いました。このとき写生した、くし、かんざし、あげ帽子、帯などをもとに当時の京都の嫁入り風俗を描き出したのが本作です。作者は「華やかな婚礼の式場へのぞもうとする花嫁の恥ずかしい不安な顔と、付添う母親の責任感のつよく現れた緊張の瞬間をとらえた」と語っています。

作者は、町方女性の日常生活や謡曲、王朝風俗などに題材を求め、格調高い作品を発表し、高い評価と人気を得ました。昭和23(1948)年女性として初めて文化勲章を受章しています。



土田麦僊《平牀》 昭和8年 絹本着色 第14回帝展

新潟県に生まれた作者は、17歳で京都に出て画家を志し、京都画壇の重鎮・竹内栖鳳(たけうち せいほう)に学び、みるまに頭角を現しました。若い日本画家たちのリーダー的存在として、国画創作協会を結成したのをはじめ、画壇に大きな影響力を持ちました。

この作品は、当時日本の統治下にあった京城・現在のソウルに滞在した麦僊が、妓生(キーセン)に取材して描いたものです。朝鮮半島の寝台である平牀(へいしょう)にくつろぐ二人の妓生を白を基調に、清らかで静寂さにあふれた雰囲気を与えています。



大日躬世子《舞扇》 昭和41年 紙本着色 第9回新日展(特選)

舞扇、花かんざし、だらりの帯で着飾った5人の舞妓が銀屏風の前に集っています。椅子に腰かける舞妓を中心に、造形性に留意した作品です。

作者は京都市生まれ。京都府長岡京市にあった日本女子美術学校で学び、さらに堂本印象の画塾東丘社に入りました。人物画、花鳥画、風景画など幅広い画題を扱い、戦後は舞妓を主題に太い輪郭線で対象をとらえ、金銀箔で装飾的に構成する群像表現で独自の画風を示しました。



【主要作品解説】

前田青邨《観画》 昭和11年 絹本着色 改組第1回帝展

色鮮やかな民族服の旗袍(チーパオ)に身をまとった女性たち。その視線の先に、絵画作品を暗示させるという機知に富んだ画面構成です。

作者によれば「満州国建国記念の時、招かれて満州国に渡りました。この時、皇帝の妹君や宮室内の夫人達が展覧会を見に来られましたが、その服装の美しさに大変驚かされました。それがあまりに美しかったので」本作を描いたと言っています。持ち帰った民族服を娘やその友人に着せてモデルとしたのです。

作者は岐阜県生まれ。文展、院展の中心作家として活躍しつつ、やまと絵に学んだ歴史人物画や東洋絵画の伝統に基づいた空間の平面化と装飾化を追求しました。昭和30(1955)年に文化勲章を受章しています。



菊池契月《散策》 昭和9年 絹本着色 第15回帝展

繊細優美で気品にあふれる人物画で知られる作者は、長野県生まれ。17歳のとき画家を志して京都に出て、京都の伝統的な画派、四条派の流れをくむ菊池芳文(きくち ほうぶん)に入門して研鑽をつみ、たちまち京都画壇をリードする画家になりました。一貫して人物画に関心を抱き、歴史や物語に取材した作品を描き続けました。特に、女性像は、近世の風俗画や浮世絵などを参照しながら初期から晩年まで数多く描いています。

この作品は、そんな契月作品の中では珍しく同時代の少女をモチーフにしています。画家が芦屋に住んでいた時に頻りに目にした光景で、二頭の洋犬を散歩に連れ出す少女が描かれ、初夏のさわやかな空気が伝わってきます。橙色の着物の鮮やかさも目を引きま。契月のモダンな傾向がよく現れた作品です。



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

【関連イベント】

記念講演会「美人画というジャンルの使命とは」

日時:10月31日(土)13:30~15:00

場所:地階講堂(定員200名)

講師:尾崎真人(京都市美術館学芸課長)

※聴講無料。事前申込は不要です。 ※受付は13:00から

ギャラリートーク

日時:11月6日、20日、12月4日、18日(金)11:00~

11月6日、12月11日(金)17:00~

場所:3階企画展示室

講師:本展担当学芸員

※入館券が必要です。申込不要。

ワークショップ「カード織りで紐作りを体験しよう！」(広島県立美術館友の会共催)

広島市立大学大学院生(染織造形)の指導のもと、色系を通したカードを回転させながら楽しい模様の紐やベルトを織ります。織りあがった作品とカードは持ち帰れます。

日時:11月7日(土)10:00~16:00頃(12:00~13:00昼休)

場所:3階ロビー

講師:久保田寛子、佐藤衣里、平濱あかり(広島市立大学芸術学部ティーチング・アシスタント)

対象:小学生程度~大人

定員:20名

参加費:500円

※要事前申込、先着順。(広島県立美術館までお電話にてお申し込みください。)

※当日、参加者はベルトと定規(15センチ程度)をお持ちください。

※昼食は各自(館内での飲食はご遠慮ください)。

ワークショップ「はんなり和色吹寄せ(わいろふきよせ)」

色サンプルを手に、展示作品の中に日本の伝統色を探します。絵の具を混色しながら、和色のひし型カードを作りましょう。最後に和色カードを並べて色の組み合わせや作れる模様を楽しみます。

日時:12月12日(土)13:30~15:30頃

場所:地階講堂

講師:松尾真由美(広島市立大学芸術学部講師)

対象:小学生以上

定員:20名

参加費:無料

※要事前申込、先着順。(広島県立美術館までお電話にてお申し込みください。)

※協力:泉美術館

ウェブレポーター大募集

日時:11月6日(金)17:00~18:30

受付場所:3階ロビー 実施場所:3階企画展示室

対象:インターネットを通じて本展PRにご協力いただける一般の方。

※実施当日に限って本展にご招待します。

ロビーコンサート「たおやかな麗人“柳原白蓮”の短歌を歌う」

日時:10月31日(土)12:00~

出演者:二野宮賀子(ソプラノ)、福政歩(ピアノ)

会場:1階ロビー

※申込不要。鑑賞無料

アートと私の美味しい時間「ノヴェットロと京野菜で楽しむイタリアン」

日時:11月6日(金)17:00~20:45頃

会場:3階企画展示室&1階レストランZona ITALIA in Centro

※詳細は当館までお問い合わせください。

【縮景園連携企画】

本展会期中、本展チケットを当館1階ロビー縮景園連絡通路受付にてご提示ください。

紅葉の美しい縮景園を無料で散策(お楽しみ)いただけます。

また、会期中の日時限定で美術館前芝生広場に和風カフェ「にわかふえ」が登場します。着物でおもてなしするこのカフェでは、抹茶、コーヒーの温かい飲み物はもちろん、日本酒やおつまみプレートなどもご用意しています！ぜひ、これを機会に縮景園もあわせてお楽しみください。

開催日程：

10/31～11/3、11/7～11/8、11/14～11/15、11/20～11/29

営業時間：

10時～16時



※にわかふえイメージ

【同時開催】(2階展示室)

9月20日～1月6日 美の競演—京都の美へのオマージュ

9月30日～1月6日 新しい仲間たちを紹介！—平成26年度に収集した作品を中心に

【開催概要】

展覧会名称：京都市美術館名品展 うるわしの京都 あこがれの美

展覧会英語名：Masterpieces of the Kyoto Municipal Museum of Art
The Allure of Kyoto, the Longing for Beauty

料金：一般 1,100(900)円 高・大学生700(500)円 小・中学生400(200)円

※()内は前売り・20名以上の団体料金

・学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。

・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。

前売券販売所：

広島県立美術館、セブン・イレブン(セブンコード：<http://7ticket.jp>)、広島市・呉市内の主なプレイガイド・画廊・画材店、ゆめタウン、フジ、中国新聞社読者広報部、中国新聞各販売所(取り寄せ)など

開催クレジット：

主催 広島県立美術館、イズミテクノ、中国新聞社

後援 中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー 76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7

協賛 広島県信用組合、乃村工藝社

特別協力 京都市美術館

問い合わせ先：

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22 TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. ke.yamamoto@nomura-g.jp (山本宛)

担当 学芸課 福田浩子、事業推進課 山本恵子